

1. 遺跡名 大原遺跡
（おおはら）
大原 1 1 7 遺跡
（おおはら 1 1 7）
 2. 所在地 秦野市鶴巻南地先
 3. 時代 中・近世、奈良・平安時代、
弥生時代
3. 調査概要

県道曾屋鶴巻線における平成 16 年度交通安全施設等整備事業に伴う、埋蔵文化財発掘調査です。

秦野市鶴巻南地内に所在する大原遺跡及び大原 117 遺跡は、小田急線鶴巻温泉駅より県道を東海大学方面に 300mほど進んだ場所にあり、調査箇所は3地点(3～5区)に分かれています。

全調査区ともに 11 月一杯で調査を終了し、既に埋め戻しを完了しています。以下に調査の成果を記します。

[5区]

弥生時代末～古墳時代前期頃の竪穴住居跡4軒、溝1条、ピット数基と中世の溝3条、土坑・ピット数基が発見されました。遺跡全体で見ると生活の場であったと考えられます。

[4区]

古墳時代後期の竪穴住居跡3軒と平安時代の竪穴住居跡1軒、焼土跡1基、他ピット、土坑等が数基発見されました。5区とは時期が異なりますが、やはり生活の場であったと考えられます。

[3区]

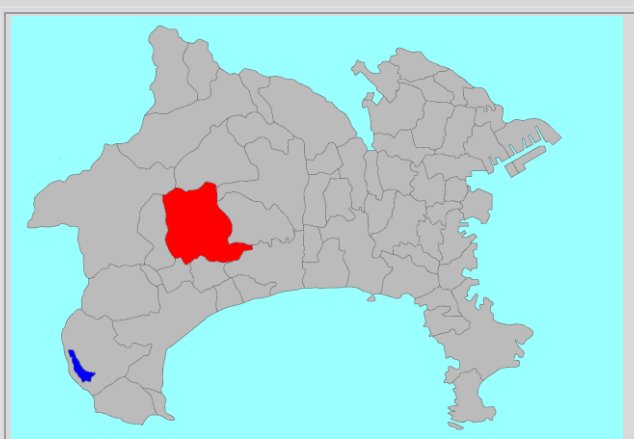
弥生時代末～古墳時代前期の方形周溝墓が1基発見されました。調査区が狭小であったため、全体はつかめませんでしたが、直角に曲がる溝が発見されています。埋葬部分は調査区外でした。遺跡全体で見ると、5区や4区と違い、埋葬の場であった可能性が考えられます。このほかには中世の地下式坑と思われる縦坑が1基発見されました。

昨年度調査箇所を含めると3つの遺跡に分かれています。同じ時期の遺構が多

数発見されていることから考えて、実際は同じ台地上に展開する1つの遺跡として捉えられるものと考えられます。

今後は、出土品の整理作業の中で、遺構のより詳細な時期の検討を行い、その結果と遺構や遺物の図及び写真を掲載したものを報告書として皆様にお知らせしていく予定です。

発掘調査報告書は刊行後、県や各市町村図書館、当財団本部にて閲覧できるようになります。



1号溝 遺物出土状況



調査区完掘状況



Y2号住居(弥生～古墳時代)